

致道博物館 令和5年度 企画展

6月15日(木)~7月30日(日)

受贈  
記念

骨董を愛好した庄内有数の大地主・三井弥惣右衛門家より寄贈の品々

# 鶴岡三井家の書画と工芸



狩野潤雲「籠・猿・虎」三幅対の内「虎図」

# 商家に伝わる名品



致道博物館  
CHIDO MUSEUM

〒997-0036 鶴岡市家中新町10-18 ☎0235-22-1199

◎9:00open-17:00closed 会期中無休

入館料:一般2800円、高校生400円、小学生300円(常設展示含む)

主催:公益財団法人致道博物館 共催:山形県、山形県立歴史民俗学館文化財課、鶴岡市教育委員会

会期中の  
イベント

ギャラリートーク

(例年学芸員による鑑賞講座)

1開催:6月18日(日)

2開催:7月15日(土)

時間:15:00~15時

記念講演会【土曜講座 第1講】

日時:7月1日(土)14時~16時

演題:「鶴岡銀行-三井の女九子の大冒険」

講師:金森敏子氏(歴史家)

申込:6月10(日)21:00迄50名(7207277)



令和5年 6月15日(木)~7月30日(日)

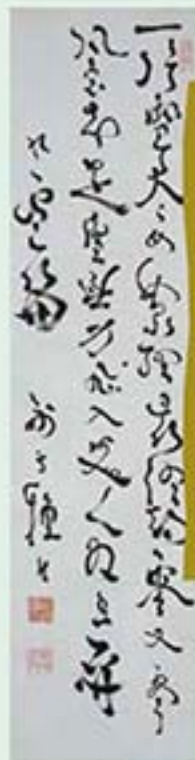
商家に伝わる名品  
—鶴岡三井家の書画と工芸—

城下町鶴岡の旧家・三井弥惣右衛門家に伝わった書画や美術工芸品は、時代や地域性が垣間見えるコレクションでもあります。江戸時代から明治時代にかけて活躍した洞雲や永真ら狩野派の作品、高久露厓や田能村直入らの南画、貫名海屋の書跡、焼き物や漆工品、約40点を紹介します。



春木南溪「夏景山水図」

山水・花鳥が得意な南画家。温厚な人物で、土佐藩主・山内重豪たちにも愛される。



副島権説「風雲録」  
(七言絶句)

独創的で常識を超えたる書風で知られる正徳の元勳



岡山藩を脱藩した幕末の志士。天誅組三総裁のひとり

藤本鉄石「送薛存義之任序(柳宗元)」六曲一双屏風(右隻)



金子金鐘  
「蓮二蝶図」

甚なまった茶辺草山を弟子にした優しい心の持ち主



狩野安信「松鶴図」三幅対

画家集団・狩野派の宗家を継いだ三男坊。兄の探幽和尚信からは酷評されたけど...



地重(野井当)  
江戸時代中期

豪華な漆器用の井当箱。種段飾りとして大切にしていた逸品

会期中のイベント

ギャラリートーク(担当学芸員による展示解説)  
6月18日(日)、7月15日(土) 各回14時~15時

記念講演会【土曜講座 第1講】  
7月1日(土) 14時~16時  
演題:「閑所抜け~旅する女たちの大冒険」  
講師:金森敦子氏(歴史家)  
申込:6月1日(木)より、先着50名



白磁角型手塩瓦  
(江戸時代、肥前磁器)

三井弥惣右衛門 みついでやそうえもん  
明治2年(1869)、三井四郎兵衛家に生まれ、鶴岡下町町の素封家・三井家の養子に入る。明治17年(1884)に家督、祖父が始めた三井牛舎(乳牛飼育)の維持発展に努める。同27年、七窪砂立の私下げをうけて砂立地開墾の先駆となる。鶴岡町議員をつとめ、鶴岡銀行・庄内水産部の取締役・監査役に就任。読書家で、養鶏・園芸・骨董等への造詣深く、一家言を有したという。伊勢商人を祖とする庄内有数の大地主であり、大正13年(1924)には、107町歩余の農地を保有した。昭和11年(1936)、68歳で逝去。ドイツ文学者の光栄、宮内省官吏の安弥兄弟の父でもある。(『鶴岡 庄内八幡宮』より)

江戸時代初期の肥前産  
白磁の古伊万里



重要文化財  
旧貫谷家住宅



国指定史跡  
酒井氏庭園



旧庄内藩主  
御隠殿



重要文化財  
旧鶴岡警察署庁舎



重要文化財  
旧西田川郡役所



重要有形民俗文化財  
文蔵庫



民具の蔵



美術展示会場  
(企画展示場)



■JR鶴岡駅より  
バス10分  
「致道博物館前」  
下車徒歩2分  
■山形自動車道  
鶴岡ICより  
車で5分  
■庄内空港より  
車で25分



致道博物館  
CHIDO MUSEUM

〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18  
電話:0235-22-1199 FAX:0235-22-3531  
https://www.chido.jp/ E-mail:infochido@chido.jp

「致道(chido)」は、庄内諸校致道館に由来し、出典は『論語』で「君子学んで以て其の道を致す」です。

